

【宗祖法然上人御法語】

(第五) 選 択 本 願

1

本願というは、阿弥陀仏の未だ仏に成らせ給わざりし昔、法蔵菩薩と申しし古え、
仏の国土を浄め、衆生を成就せんがために、世自在王如来と申す仏の御前
にして、四十八願を發し給いしその中に、一切衆生の往生のために、一つ
の願を發し給えり。

「本願」というのは、阿弥陀仏がまだ成仏しておられなかつた昔、
法蔵菩薩と呼ばれた遠い過去世、仏の国土を浄め、衆生を救う
ために、世自在王如来という仏の御前で四十八願を起こされた
その中で、全ての衆生の往生のために、ある一つの願を起こされ
ました。

2

これを念仏往生の本願と申すなり。

これを念仏往生の本願と申します。

3

すなわち無量寿経の上巻に曰く、

つまり、『無量寿経』の上巻には

4

「設し我れ仏を得たらんに、十方の衆生、至心に信樂して、我が国に生ぜん
と欲して、若し生ぜずば正覺を取らじ」と。

「もし私、法蔵菩薩が仏の位を得たとして、十方の衆生が誠を
尽くして信じ願ひ、私の国に生まれたいと望んで、わずか十遍でも念
じて、もし生まれないならば、私は覺りを開かないであろう」とあり
ます。

5

善導和尚、この願を釋して宣わく、

善導和尚はこの願を解釈して

6

「若し我れ成仏せんに、十方の衆生、我が名号を称すること、下十声に至るまで、若し生ぜずば正覚を取らじ。

「もし私が成仏するとして、十方の衆生のうち、私の名号を称えることがわずか十声の者まで、もし誰か一人でも私の国に生まれなければ私は仏とならないであろう」と、法蔵菩薩はお誓いになった。

7

彼の仏、今現に世に在して成仏し給えり。

その阿弥陀仏は、今現在極楽世界にあつて仏と成つておられる。

8

当に知るべし、本誓の重願虚しからざること。

当然知るべきである、阿弥陀仏がかつて誓われた大切な願は虚しいものではないことを。

衆生しゆじやうが称念しやうねんすれば必ず往生わうじやうを得」と。

衆生しゆじやうが称念しやうねんするならば、必ず往生わうじやうすることができるので

ある」とおっしゃっています。

10

念仏ねんぶつというのは、仏ぼつの法ほつ身しんを憶念おくねんするにもあらず、仏ぼつの相そう好こうを觀念くわんねんするにもあらず、

念仏ねんぶつというのは、真理しんりそのものとして仏ぼつを思い念ねんずるのでもなく、

仏ぼつの身体しんたいの特徴とくごうをありありと思おもい画えがくのでもありません。

11

ただ心こころを致いたして、専もら阿彌陀あみだ仏ぶつのみ名な号ごうをし称しょう念ねんする、これを念ねん仏ぶつとは申ますな

り。
ただ心こころを尽つくしてひたすら阿彌陀あみだ仏ぶつのみ名な号ごうをこゝろに出だして称しょうえる、

これを念ねん仏ぶつと申ますのです。

12

故に「称我名号」というなり。
しょうがみょうごう

だからこそ善導和尚は「我が名号を称すること」と解釈されたのです。

13

念仏の外の一切の行は、これ弥陀の本願にあらざるが故に、たと目出度き行なりといえども、念仏には及ばざるなり。

念仏以外の一切の行は、阿弥陀仏の本願の行ではないので、たとえ立派な修行であっても、念仏には及ばないのです。

14

おおかた 大方、その国に生まれんと欲おもわん者は、その仏の誓いに随したがうべきなり。

おおよそ、ある仏の国に生まれたいと願う者は、その国の仏の誓いに随したがうべきです。

15

されば、弥陀の浄土に生まれんと欲おもわん者は、弥陀の誓願せいがんに随したがうべきなり。

それゆえ、阿弥陀仏の浄土に生まれたいと願う者は、阿弥陀仏の誓願せいがんに随したがうべきであります。